

ループリック (rubric) 評価とは Part2

前回紹介したループリックを再度提示します。

学習活動	評価規準	観点	評価資料	評価基準		
				A	B	C
3. レポートにまとめたことを検証しよう。(1時間)	工夫してレポートを作成することができる	技能	レポート	友達から付箋紙を5枚以上つけてもらっている	友達から付箋紙を3枚以上つけてもらっている	友達からの付箋紙が1枚もついていない
	コンビニエンス・ストアが急成長した理由を理解する	理解	ノート	ノートに理由を5つ以上書いている	ノートに理由を3つ以上書いている	ノートに理由を2つ以下しか書いていない

まず、これは1時間の授業を総括する評価になるので、みとる観点は1~2つになります。今回は、「技能」と「知識・理解」の観点で評価しています。そして、その観点に沿って、「評価規準」→「評価資料」→「評価基準」がずれることなく設定されていることです。この設定が重要で、ここがずれてしまうと授業がぼやけたものになってしまうのです。授業の目標をしっかり見据え、ずれないように設定を進めましょう。次に、評価基準の設定ですが、ここは明確に表現することがポイントです。一番わかりやすいのは数値で評価することです。今回だと「付箋を5枚」や「理由を3つ」といったように、数値化すると評価をつけやすくなります。数値設定の基準については、日頃の生徒の様子を捉え、授業者が設定すればよいのです。

また、基準を示す表現が「数値的な尺度」ではなく、「評語」で表現される場合もあります。例えば、前回紹介した学習計画で2時間目の「調査したことをレポートにまとめよう」についてループリックを作成した例を紹介すると、

学習活動	評価規準	観点	評価資料	評価基準		
				A	B	C
2. 調査したことをレポートにまとめよう。(1時間)	意欲的にレポートづくりに取り組もうとする。	関心	観察	友達にアドバイスをしたりしながら、自分の調べたことをレポートにまとめている	自分の調べたことをレポートにまとめている	私語をしたりしてレポートにまとめようとしていない

このように、数値で示さなくても評価の基準線を明確にするよう表現することができます。ポイントとしては、子供自身が自分で評価できるようにすることが大事です。これだと授業の終末に子供自身が自己の振り返りとして評価することができますね。自己評価の指標として示していくのがループリックになるかと思います。

・・・ to be continued ・・・